

富山県立高岡工芸高等学校 1894 創立

創校時は国をあげて産業振興に努め、明治22年には大日本帝国憲法を公布して国の基本を定めるなど、明治の気概の盛んな時期でありました。このような社会状況にあって、工業の振興を具是に掲げた富山県知事、徳久恒範が明治25年に着任しました。そして工業振興の一端として工芸学校の創立を計画、発表しました。

古来、商工の都市として発展してきた高岡市は工芸学校誘致に動き、時の県会議長で、高岡市長でもあった堀二作らの奔走の結果、高岡に設置することが決まりました。そして明治27年「富山県工芸学校」として設立、初代校長は納富介次郎でありました。学校の編成は木材彫刻、金属彫刻、鋳銅、髹漆の4科に分かれており、それぞれ本科、速成科を設け、別に実習だけを課する選科を置きました。生徒は合わせて90名、職員は9名でした。

納富 介次郎 1844-1918



弘化元年肥前(現佐賀)小城藩の国学者柴田花守の二男として生まれ、16歳の時佐賀藩の義士納富六郎左衛門の養子となりました。幼い頃から学を好み、書画詩歌にも長けて神童とよばれ、17歳の時には長崎で南宗画を学びました。その後、維新の志士江藤新平、後藤象二郎、副島種田等と交遊を深めました。また高杉晋作、五代才助等と上海に渡り、欧州列強の進出を目の当たりにし、外国貿易の必要性を痛感しました。

明治6年にウィーン万国博覧会へ審査官として渡欧、万博終了後伝習生としてヨーロッパ各地の工芸の技術を研究し習得して帰国しました。明治9年のフィラデルフィア万国博覧会にも事務官として現地に派遣され、審査官に任命されました。しかし、介次郎の主眼は日本の産業技術の向上にあり、官を捨てて工芸、工業教育の必要性を主張して、石川県工業学校、富山県工芸学校、香川県工芸学校、佐賀県工業学校を次々と設立し、多くの工芸家、美術家を育てました。

青井 忠治 1904-1972



明治37年富山県小杉町(現射水市)に生まれ、大正11年に本校木材工芸科を卒業。月賦販売店「丸二商会」に就職。持ち前の誠実さと努力で功績が認められ昭和6年、のれん分けを受け、26歳で中野に「株式会社丸井」を設立し、独立創業しました。以来日本初のクレジットカードを発行するなど、45年間を日本における月賦商法の近代化にささげました。昭和33年に紺綬褒章、41年に藍綬褒章を授章し、昭和50年永眠。生前の功績が認められ、従五位勲三等瑞宝章を授与されました。

『社会から得た利益を社会へ還元する』を人生信条として、私財を投じて青井奨学会設立など社会貢献活動を行いました。

青井記念館美術館

昭和38年に故青井忠治氏より寄贈された図書館とギャラリーを擁する旧青井記念館が、高岡市都市計画(高岡市民総合文化広場構想)にともない移転することとなりました。青井記念館は、時を同じくして平成6年の本校創立100周年の記念事業の一環として、関係各位の厚い理解のもと、移転新築されたものです。

本館が所蔵する作品は、明治27年創校当時教材として譲り受けたもの、在職した教職員の作品、生徒が母校に残した卒業制作品、同窓生からの寄贈された作品等、現在は900点余に達しています

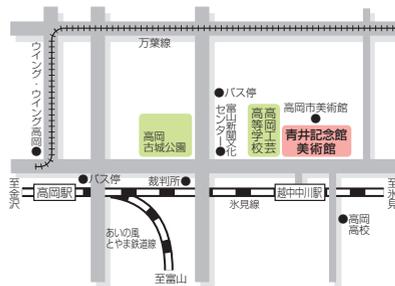
旧青井記念館の時代には、年に1回の学校祭「尚美展^{しょうびてん}」で一般公開していましたが、移転新築を機に、これらの優れた作品を常時公開し、広く県民に親しまれる美術館を目指しています。

ご利用案内

- 開館時間 AM 10:00 ~ PM 4:00 (入館はPM3:30 まで)
- 休館日 月曜日(祝祭日の場合は、その翌日) 年末年始(12月28日~1月4日)
- 観覧料 無料

交通案内

- JR氷見線越中中川駅下車 徒歩5分
- 高岡駅より徒歩約25分
- バス(市内・系統・富山行方面) 中川下車 徒歩2分



お問い合わせ



〒933-8518 富山県高岡市中川1丁目1番20号
TEL(0766)21-1630 FAX(0766)22-1631
<http://koge-i-h.el.tym.ed.jp/>

2017年発行

収蔵作品紹介

富山県立高岡工芸高等学校

青井記念館美術館

Aoi Memorial Museum of Art

明治期の卒業生

■ 畑 正吉 (1882-1966)

1898年木材彫刻科卒
元東京美術学校教授



彫刻 《老人首》

■ 松村 秀太郎 (1888-1971)

1905年木工科卒
彫刻科教員



金工 《鳳凰一对》

■ 初代 石井 勇助

(1808-1886)



漆芸 《山水草花模様茶棚》

■ 内島 市平 (1881-1943)

(青鳳)



金工 《榛模様花瓶》

■ 酒井田 柿右衛門

(1660-1691)



陶磁 《赤絵付香炉》

■ 加納 夏雄 (1828-1898)



金工 《銀四分一鹿模様香盒》

富山県工芸学校草創期

■ 納富 介次郎 (1844-1918)
(介堂)

初代校長



漆芸 《双龍彫刻 漆器大盆》

■ 新村 弥三郎 (1872-1939)

漆工科教員



漆芸 《文宮(秋景蒔絵)》

■ 中島 次郎 (1878-1961)
(秋圃)

図案絵画科教員



日本画 《唐獅子図》

■ 大島 五作 (1861-1934)
(五雲)

木材彫刻科教員



木工 《欄間(梅蘭透)一面》

■ 村上 九郎作 (1867-1919)
(鉄堂)

校長心得
木材彫刻科教員



漆芸 《手炉》

■ 大塚 秀之丞 (1870-1937)
(楽堂)

彫金科教員



金工 《商人》

■ 関 義平 (1858-1923)
(義白)

彫金科教員



金工 《狎置物》

卒業生の活躍

■ 佐々木 長次郎 (1889-1978)
(大樹)

1908年 木工科卒
元帝国美術学校・多摩美術大学教授
日本芸術院賞(1928)



彫刻 《誕生仏》

■ 山崎 覚太郎 (1900-1984)

1919年 漆工科卒
元日展会長
日本芸術院賞(1954)



漆芸 《紅梅》

■ 郷倉 与作 (1892-1975)
(千韮)

1910年 漆工科卒
元多摩美術大学教授
日本芸術院賞(1960)



日本画 《生》

■ 大角 勲 (1940-2010)

1959年 金属工芸科卒
元日展理事
日本芸術院賞(2003)



金工 《斜度の光年III》

重要無形文化財保持者

■ 藤森 兼明 (1935-)

1954年 図案絵画科卒
元日展副理事
日本芸術院賞(2007)



洋画 《ラビスのアイコン》

■ 金森 栄一 (1908-2001)
(映井智)

1928年 金属工芸科卒
金工科教員
1989年受賞



金工 《銀線象嵌 鑄銅六方花生》

元富山県工芸品陳列場所蔵

■ 伝 久隅 守景

(江戸時代)



日本画 《十六羅漢之図》